

仙台の良きもの、美しいもの



仙台は、僕にとって特別な街。
季節によって
美しく変化する風景に出会うたび、
仙台っていいなあ、と思うんです。

まっすぐに、ストイックに氷と向き合い続けている羽生結弦さん。久々の里帰りとなったある日、彼はとても穏やかな表情で木洩れ日に目を細めていた。



——電車でも飛行機でも、仙台に降り立つといつも「ああ、帰ってきたな」と思うんです。ほっとするというか、落ち着くというか。どの街、どの国にもそれぞれ魅力的なところはたくさんあるけれど、やっぱり僕にとって仙台は「ただいま」と言える特別な街。時にはゆっくりと散策を楽しみながら、杜の都の四季を感じたいですね。四季折々の美しさといえば、やはり『瑞鳳殿』を思い出します。初夏の新緑に、秋の紅葉。伊達政宗公の高い美意識に合った空間だと思います。

瑞鳳殿

仙台藩祖伊達政宗公の御廟である瑞鳳殿。青々と繁る杉木立の中、二代忠宗公の感仙殿、三代綱宗公の善応殿とともに佇む。絢爛豪華、華やかな色彩に富んだ桃山風の廟建築が見る者を圧倒する。

仙台市青葉区霊屋下 23-2
☎022-262-6250
<http://www.zuihoden.com/>
るーぶる仙台「瑞鳳殿前」下車、徒歩5分
⇒Map(P21): 07

『瑞鳳殿』は、70歳で生涯を閉じた仙台藩祖・伊達政宗公の遺命により1637年に造営。桃山文化の遺風を伝える廟建築として国宝に指定されたが、戦災で焼失、1979年に再建された。グローバルな視座と繊細な感性で日本の歴史や文化を吸収し、新たな演技の境地へと己を高め続ける羽生さんの姿は、どこか伊達政宗公の目指した志と重なるように思える。